

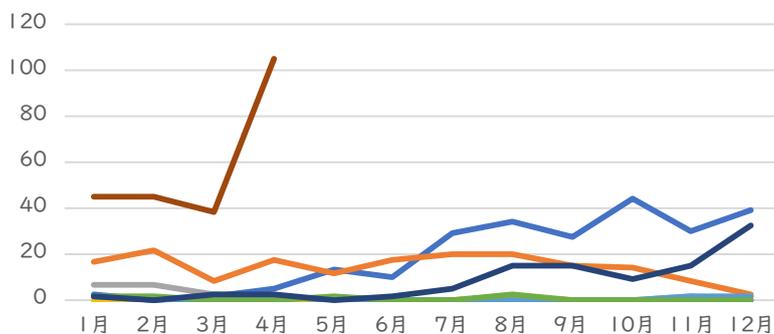
百日咳が増加しています

【概況】

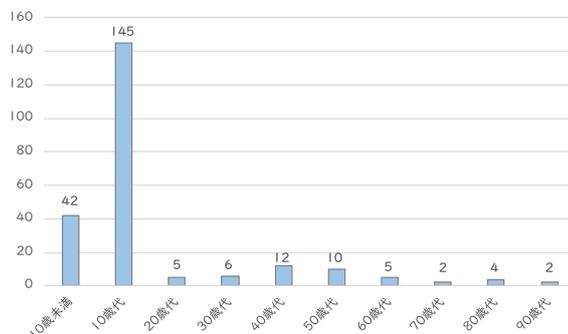
2024年8月以降患者報告が増加しはじめ、2025年1月～4月(4月27日まで)の患者数の累計数は233人です。特に4月は急増しています。
10歳代の患者が多く、全体の62.2%を占めています。

【市内流行状況】

2024年8月以降、発生数が増加し始め、12月以降は高い値で推移しています。2025年4月は急増し、105人(4月27日まで)の報告がありました。2018年1月1日に全数把握疾患としての調査が開始されて以降、1か月の報告数としては過去最多です。患者の年齢層は、10歳代が多く、全体の62.2%を占めています。



百日咳発生数
(2018年1月～2025年4月)



年齢別発生数

(2025年1月～2025年4月)

百日咳とは

百日咳菌による感染症で、特有の咳(コンコンと咳き込んだ後、ヒューという笛を吹くような音をたてて息を吸う)が特徴です。発熱することは少ないです。生後3か月未満の乳児では呼吸ができなくなる無呼吸発作、脳症等の合併症も起こりやすく、命に関わることもあります。潜伏期間は通常7～10日で、感染経路は飛沫感染(咳、くしゃみなど)、接触感染(感染者の飛沫などに触れた手で、ロや目などの粘膜を触ることによる)です。年長児や成人では特徴的な咳が目立たないため、百日咳にかかっていることに気づかず、新生児や乳児の感染源になることがあります。予防には、生後2か月以降に5種混合ワクチンの接種が有効ですが、4～12年で免疫力が低下するため、学童期にワクチンの追加接種が望ましいです。咳エチケットも重要です。登校(園)基準は、学校保健安全法によると、特有の咳が消失するまで、又は5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで出席停止となっています。

